

# 地球一周の船旅 2016 ①

## 【出航準備編】



2017年2月

旅のチカラ研究所 植木圭二

地球一周の船旅を2016年4月12日～7月26日の106日間で行ってきた。

今回は出航準備編として準備過程から出航までをまとめた。地球一周への思いは遙か昔に遡るが、本篇は具体的に動き始めたころから出航までのおよそ2年間を記述する。

## 第一章 地球一周企画

### ■なぜ、地球一周なのか

旅が好きな人間にとって、世界一周とか地球一周とか、あるいは日本一周とかいう〇〇一周という言葉にある種の憧れがある。

私の場合も今から約40年前の大学2年生の時に友人たちと3人で三菱自動車のデリカというワンボックスカーを買い込んで50日間で日本一周を実行している。約1万キロの自動車旅行ではあったが、その後の私の旅行人生の一つのエポックになっている。

この旅は当初は途方もないことを計画していたが最終的には日本一周に落ち着いたという経緯がある。その途方もない計画とは、シルクロードをジープで走ってヨーロッパに渡りモンブランに登頂して帰りはシベリア鉄道で帰国するというものだった。残念ながららというか当然ではあるが大学生ではこんな大きな計画は実行できずに縮小して縮小して最後は日本一周になったというものである。でも最初から日本一周だったならばきっと最終的には北海道一周くらいしかできなかったように思う。

人間は夢ありきである。まずは最初に大きく夢を抱いて、だんだん現実視していくという私の旅行プランニングパターンの先駆けかもしれない。私の好きな言葉で「理想は高く、姿勢は低く」という言葉があるが、この言葉を口にするきっかけになったと思う。

それ以来、世界規模な旅、地球儀を回してトレースするような旅をしたいというような思いが

私の中で育っていくことになる。

そんな昔からの憧れと定年を機に何か節目イベントをやろうということが合体して、今回の計画に発展するのだが、それをより具体化できたのは同居していた母が他界したことが大きなきっかけとなる。このような長期の旅行は家を留守にするところから始まるので、費用や時間の問題もあるかもしれないが家族の問題は非常に大きい。幸いにして留守宅には息子がいて彼にも感謝であるが、天国で見守っていてくれる母にも感謝である。

そういう協力や支えがあってこのような旅行ができる。長期旅行は単にお金や時間の問題だけではなく、周りの状況というのが非常に大きな要因になる。

## ■地球一周とは何

地球一周あるいは世界一周という言い方があるが、その定義は漠然としている。

もっともらしいものは、地球を球体とみて反対側にある 2 地点を通過するという定義がある。例えば東京はおおよそ北緯 35 度、東経 139 度で、その東京の反対側の地点とは南緯 35 度、西経 41 度を示している。その反対側の地点とは南大西洋上でアルゼンチンの首都ブエノスアイレスから東へ約 1500km 沖で、東京発で地球一周はその地点を通過すれば反対側を回ることになる。

私はそこまで厳格に考えるつもりはないが、日本を西に向かって（または東に向かって）出発して東方面（または西方面）から帰国するというアバウトな感じでいいと思う。なぜならば地球儀を回すことが私の地球一周のスタートだからである。

最近グローバルという言葉が多用されているが地球を一つの球体つまり英語で言うグローブから派生している。環境、資源など地球を意識することが多くなり、この言葉が多用され始めたと理解している。

あるいは既に人類は地球外の天体にも足を伸ばしており、宇宙旅行もビジネスになりかけているので、厳密には世界一周というと宇宙も含むものかもしれない、世界の定義が広がってきているのにも関係している。

私は地球一周という言葉を使うことにする。

そしてそんな地球一周をなぜ船で行くことにしたのか。

一般的には地球一周の手段としては船以外に飛行機がある。そしてうまく飛行機を選んでいくとかなり安価に行ける。それは世界各国の航空会社がいくつかのグループを作っていてそのグループに加盟している航空会社の飛行機を乗り継いでいける周遊チケットが販売されている。いわゆる乗り放題に近い。

例えば全日空はスターアライアンスというメンバーで、この加盟航空会社の乗り継ぎで地球一周することができる。このチケットはエコノミークラスで 35 万円～50 万円で購入できる。当然ビジネスクラスやファーストクラスもある。価格に幅があるのはどのくらい飛行機に乗るかによる。

日本航空もワンワールドというメンバーであり、同様なチケットが存在する。このスターアライアンスとワンワールドは加盟航空会社が異なるのでどの地域どの国を重点的に回りたいかとか、利用条件も異なるので最適なものを選ぶことになる。

さらにこれらのチケットを手配にあたり、アドバイスしてくれるコンサルタント会社も存在する。世界一周堂というその業界では有名な会社がある。私もここに相談に行ったことがあるが顧客の要望を取り入れてオーダーメイドで地球一周プランをつくってくれる。

旅のチカラ研究所を構える私にとっては、世界一周の旅のサポートをするその役目をいずれは私も担えるようにしたいと思っている。

さて飛行機の場合、どのくらいの期間で地球一周するのが最も重要なポイントになる。チケットが入手できれば総費用は日数で決まる。例えば一日当たりの宿泊費、食費、国内交通費、入場料などを2万円とすると30日間で60万円、先ほどのチケット費用と合わせると30日間地球一周の旅がおおよそ100万円が可能になる。

また、10日間以下では飛行機に乗っているだけということになりかねない。以前、2週間で地球一周計画を立てて妻に見せたが、ほとんど飛行機に乗っている企画にあきれていた。

そういえば昔、JR発足10周年記念切符が発売され3日間JR全線しかも新幹線も含めて乗り放題というものがあった。もの好きな友人と示し合わせて、これは行くしかないねと3日間日本一周鉄道の旅に出た。新幹線と夜行列車を駆使して回ったことは記憶しているが、思い出は座り続けたために腰が痛くなったというものになったことを覚えている。おっと話がそれってしまった。

おそらく費用面でいえば飛行機の方がかなりお得である。だから地球一周経験者が書いた格安の地球一周の体験本などを読む限り、その著者のほとんどはこの航空券を利用している。

何故、私は最初の地球一周に船旅を選んだのか。

2016年ノーベル文学賞を受賞したボブディランは歌の中で「その答えは風の中に舞っている」と言っている。私も昔からボブディランが好きなので、彼の言葉を真似して言えば「その答えはこの旅行記の中にある」としたい。

そして最初の地球一周にとあえて付け加えたのは、次は飛行機にしたいという気持がある。

#### ■クルーズ船を選ぶ、それもまた楽しい

定年退職を2年後に控えて、定年退職記念に地球一周、それも船で行こうと計画が煮詰まってくる。この頃からいろいろな思いをめぐらすことになり楽しい時間がやってくる。具現化していくという旅の企画・計画段階は旅にとって最初の楽しみの時期で無限の可能性が期待できる。

ついでに言うと旅は企画から含めると3度楽しめると私は考えている。それは企画・計画段階、そして実施段階、最後は思い出段階である。その思い出段階と写真を見たり整理したり、旅行記を書いたりする、そして次はどこに行くというように次の旅が生まれるのである。

大型客船による外洋クルーズは過去2回ほど家族で行った経験がある。1994年に会社の企画で参加した神戸発、韓国、中国の10日間の船旅と2000年にマイアミ出港のカリブ海クルーズ5日間である。話はそれるがマイアミに行く前にニューヨークに立ち寄った時にその約1年後に飛行機が突っ込むことになる貿易センタービルを見物に行っている。

どちらも小さな子供連れの家族旅行であり、短期間のいわゆるショートクルーズである。ともあれ私たち夫婦にはこの2回しか大型客船外洋クルーズの経験がない。

現在、日本の事業者が運航させている大型客船は飛鳥Ⅱ、ぱしふいっくびいなす、日本丸、そしてオーシャンドリーム号である。オーシャンドリーム号というよりもその運営主体であるNGO（非政府組織）のピースボートの方が有名で、時おり街で地球一周の船旅というポスターを見かける。

まず、私はこのような時には詳細な比較表を作成する。費用、日程、設備、乗客、オプション費用など資料を集めて埋めていく作業になる。日本丸はここしばらく地球一周計画がないのでまずは除外する。飛鳥Ⅱとぱしふいっくびいなすは2年に一回くらいの頻度で地球一周を実施している。オーシャンドリーム（ピースボート）だけが年3回、常に実施している。どの船も地球一周は100日前後の日程である。比較表を要約すると以下のようになる。

|            | トン数   | 就航    | 費用／人  | 大浴場 | 乗客年齢 |
|------------|-------|-------|-------|-----|------|
| 飛鳥Ⅱ        | 50142 | 2006年 | 420万円 | 有   | 70歳  |
| ぱしふいっくびいなす | 26594 | 1998年 | 290万円 | 有   | 69歳  |
| オーシャンドリーム  | 35265 | 1981年 | 180万円 | 無   | 46歳  |

費用は早期割引も全て適用させたツインルーム利用の一人当たり料金で、当然その部屋の広さや設備により松竹梅といろいろなランクがある。このくらいならば満足できるというところに合わせた。費用にはこれ以外に寄港地でのオプションツアーや船内でのアルコール費用などが加わる。船の中で食べて寝ているだけならばほぼこの費用で地球一周ができる。しかし実際はオプションツアーがかなり高い。

注目は乗客の年齢である。説明会で質問して聞き出したもので、費用も魅力ではあるが、この年齢が決め手になりオーシャンドリーム号に決める。定年退職して中高年の仲間入りは現実ではあるが、乗客の平均年齢が自分たちの年齢プラス10歳というのはさすがに気乗りしない。

外洋大型客船とは、フェリーなどの定期航海船を思い浮かぶ人も多いが、それらとはかなり異なる。定期船でないので決められた航路がある訳ではなく、船のサイズも桁違いに大きい。簡単に言うとプールやレストランを備えたリゾートホテルがそのまま外洋つまり外国に行き、港に立ち寄りながら旅行するというもので、その船内では食事や様々なイベントが開催される。

オーシャンドリーム号も2つのプールに3つのレストラン、そして4つのバー、美容室、ジム、医療施設など必要最低限の設備が整っている10階建ての船である。

## 第二章 定年退職そして出発へ

### ■大それた計画

実は定年退職が3月末なのであるが、当初の計画は無謀にも定年退職前の現役のうちに行ってしまうというものであった。

ちょうど12月17日に出発して3月30日に帰国するとう南半球まわりの第90回クルーズがピ

ースボートから出ていたのである。南半球ということは日本を出て西に進んで、シンガポール、インド洋、アフリカ、アフリカ大陸南端喜望峰を回り南大西洋、南米、南米大陸南端そして南太平洋イースター島などを経て帰国する。アフリカや南米という今まで私がいちど行ったことがないところに寄港するワクワクするルートである。

そして日本のほぼ反対側である南大西洋のアルゼンチン沖を通過するルートなのだ。地球一周の定義の一つである反対側の2地点を通過することができる。

問題は、もしもアクシデントがあって帰国がずれ込むと会社生活の集大成の定年退職日の3月31日に間に合わないというものになる。かつてピースボートの船は2度ほど動力系のトラブルで何日間も漂流したことがある。今でもインターネットにはその時のことやその後のことが結構掲載されている。

早速ピースボートの担当者や責任者に問い合わせると心配無用ということである。当然心配ですと答えるバカはいないが、確かに過去2回そのようなことはあったが昔使用していた船のことで現在のオーシャンドリーム号になってからはその手のトラブルは皆無だそう。さらに日程にはかなりの余裕を見ているということである。通常は5日間かかるこの航路を本船行程では余裕をみてこのように設定しています・・・などと説明が論理的なので納得してしまう。

最悪のどうしようもない場合は途中で離脱して飛行機で帰国するという手段もあり、この問題は私の中ではクリアする。

現役のうちに行くというのは大きくは2つのメリットがある。一つは経済的側面で健保や各種保険などが現役のうちには手厚いということと、旅行中も給料が毎月振り込まれる。3カ月も遊んでいても月々の給料が振り込まれるとはこの上ない贅沢である。

そしてもう一つは会社の後輩やサラリーマン諸氏へのエールである。定年する前でも地球一周の船旅というご褒美を頂けるということは次に続く人への励みになるだろうと。

有給休暇が未消化のまま100日間もあるので社員の権利を主張すれば会社は何とかなると思っていた。幸いにして定年退職の場合は職場内外からも「定年はいつですか？」などといつも言われているので職場公認で最終階段を登っていくような感じなので長い間御苦労さまでしたという空気が漂い、3カ月くらい早く会社に来なくなっても何ともないだろうと判断していた。あるいはそれくらい優しい職場だったのかもしれない。

職場や人事や関係部署にも確認を取ってそのつもりで進めていたが、実施1年前くらいになると現実的な問題が浮上してきた。どうしても定年退職前に2日ほど出社が必要ということになった。1日は何とかかなりそうだったが、もう1日は旅行に行っているとうのではとても回避できそうもない。

優先順位としては会社生活の仕上げである定年退職の方が優先であり、残念ながら定年前実施の計画はあえなく頓挫することになる。

## ■お試しクルーズ

ピースボートは1年に3回ほど地球一周をしているので、1回が105日間として315日間はそれに使われる。あと50日間ほどの残りの部分でショートクルーズ、船内見学会、メンテナンスな

ど充てられる。

春と夏は1週間程度のショートクルーズが実施される。このターゲットは子供たちの長期休みに合わせて家族連れ、あるいは地球一周をしたいが船旅とはどんなものなのかを体験したい人である。

2015年3月に4泊5日のショートクルーズ（博多～済州島～広島～神戸）でオーシャンドリーム号に乗船する。参加目的はズバリ、1年後の地球一周航海をするお試し船旅で船の設備の視察や船内生活の体験のためである。費用は一人88000円で乗船、宿泊、食事、船内イベント費用が込みのことを考えると決して高くない。特にありがたいことに私たちは地球一周フルクルーズを申し込み中なのでこの費用が50%オフになるという特典がこの時にはあった。しかしいつもこの特典があるとは限らないらしい。

このショートクルーズの詳細は旅行記「博多発船旅2015」を参照いただきたいが、地球一周のフルクルーズの事前調査としての役目は十分果たせたと思う。

ただ少し気になる点として新規顧客を呼び込むという目的からか、食事とミュージシャンなどのエンターテインメントの内容は実際の地球一周の時よりは充実している感じがする。まあ、それはご愛敬、いや当たり前と考えないといけないだろう。

いずれにしてもこのショートクルーズから1年後の地球一周に向けて、自分の中で何か動き始めた感じがする。

#### ■定年退職はサラリーマンの特権

3月31日がサラリーマン生活37年の最終出勤日になる。つまり定年退職ということであるが、この関連の行事もそれなりに多い。会社に提出する書類や送別会や定年式典など3月は目白押しである。

定年するという実感は全くないが、4月1日からは会社員ではなくなるので出勤するところもない。私は予ねてから定年退職はサラリーマンの特権と言っている。サラリーマンだから60才で節目があり、会社から退職金という御苦労さん代までもらえて区切りをつけることができる。ここから何かすることができるのは大変ありがたい。

人生80年を一日24時間に例える話がある。0時に生まれ、24時を80才と定義すると、朝6時は20才で丁度一日が始まる頃に成人を迎えその前後に社会人としてスタートする。

9時が30才、ウォーミングアップも終わりいよいよ就業時間である。12時は40才、人生の折り返し地点であり、一般的にはこのころ部課長など要職につき、家庭では一家の大黒柱という存在である。15時は50才、就業時間まで3時間ほどでもう一仕事できる。18時は60才、ここで就業時間が終わり、ここで会社を出る。会社に留まる人は残業する人ということになる。そして18時で退社してから6時間後の24時で80才になる。

私たちアラカン（アラウンド還暦：ほぼ60歳の人たち）はここからの6時間が勝負である。

18時つまり夕方6時といえば仕事が終わって友人と一杯行くのもよし、スポーツジムに通うもよし、趣味に興じるのもあり、もちろん早く帰宅して読書やテレビを見するというものもある。つまりここから自分の時間が始まるということである。寝るまでのこの時間を如何に過ごすかという大きなテーマをもらえるのは、こんなありがたい話はない。

それが 60 歳という特権なのである。

ついでに言えば 24 時になったからと言って必ず寝る必要があるわけではなく、起きていたければ夜明けまで起きていればよい。ちなみに 100 才まで生きると翌日の朝 6 時になる。もう一度日の出を見ることができるということは人生を再出発する気分を味わえるのかもしれない。

60 歳、私は人生を振り返り今後の予定を立てる旅に出ることにする。

#### ■準備は何て大変なのか

4 月 12 日の出航までわずか、今までも少しずつ準備してきたつもりであるが、定年イベントにかまけてあまり進んでいない。準備は大きく分けて 4 つある。しかしこれはあくまでも私の場合であり、一般論ではないのでご承知いただきたい。

パソコンやホームページの準備、その他電子機器関連としてカメラやバックアップメディアも準備するのも必要不可欠である。船室には商用電源（ヨーロッパ仕様なので 220V）がきていてインターネット以外はホテルの部屋並みの環境が整っている。

そのインターネット環境だが、出航後に洋上からホームページを更新していくことなので結構大変である。というのは洋上の船は孤立無縁なので船と日本のプロバイダーとは衛星回線でのみ接続される。問題はこの回線容量は少ないのでデータの転送に時間がかかり高価になるので最低限のデータ転送で済むように特設のホームページを立ち上げる。この特別なホームページを洋上特設ブログとしてほぼ毎日更新する予定である。

次は船上イベント関連として英会話、落語、ゴルフやスポーツの準備がある。

英会話は寄港地でも英語を使う機会もあるが、クルーはほとんど外国人で東南アジア系が多い。そのため英会話力アップにはもってこいの環境なのである。したがって船上の英会話教室に申し込みをしている。しかし、まともな英語の勉強は学生時代で止まっているので少しでも助走期間として出航前英会話教室と会社で購入した通信教育を 2 ヶ月前から始めることにしており、この時間を作らなければならない。

落語は大学時代に落語研究会にいたので、昔取った杵柄ということで定年を機に復活させようと考えている。しかし 37 年間のブランクを埋めるためにはかなりの準備が必要のはずだ。乗船したら時間はあるだろうと考えるにしても、学生時代に使っていたネタ本を探し出して用意しないとイケない。

そして観光関連とした寄港地での観光のための準備が必要である。船にはオプションツアーとって寄港地ごとに日帰りのバスツアーが用意されているのと、オーバーランドツアーということで、ある寄港地で降りて次以降の寄港地で合流するという少し長い期間船を離れて旅行をするというものがある。

どちらの場合も一般的なバック旅行などに比較してかなり高い。したがって自由行動で自分の力で現地日帰り旅行を計画することになる。ただし治安や公共交通機関の事情もあるので、いくつかは致し方なくオプションツアーを利用する。そういう判断するためには事前情報が必要な

のである。

自由行動のためには最新のガイドブックが必須になる。私はいつも海外旅行に行くときには地球の歩き方という本を持っていく。しかしこの本を 20 冊も 30 冊も持っていくのは大変なので、事前に図書館で借りてスキャナーで読み込んで PDF 化してパソコンに入れる作業がある。

また、船の旅行会社が用意したオプションツアーではなく直接現地の旅行会社に日帰り旅行を手配することなど調べる作業がある。当然、現地の旅行会社の方が現地特有のユニークなツアーや安いツアーも多い。1 年前に行ったショートクルーズでは韓国済州島の現地ツアーを日本から直接申し込んで大変有意義な小旅行をしたことがある。

最後に一般の旅行準備と同じような衣類や日用品の準備をする。106 日間のホテル住いと考えるとよいが、季節は日本でいうと冬から真夏までをカバーしないといけない。そしてオーシャンドリーム号のパンフレットにはドレスコードはないと明記されてはいるものの、やはり何回かはスーツや着物を着ることになるので、その用意が結構大変になる。

履物だけでもスーツ用の靴、運動靴、着物用の雪駄、部屋で履くサンダル、あとは気楽に履けるスニーカーなどである。男の私でさえこうならば、きっと女性はもっと大変だろうと思う。

さあ、何とか準備は整った。あとは詰め込むだけである。

ここで船旅の荷物に関する恩恵がる。船室は既に確保されており当然既に決まっている。したがって何日前かにスーツケースや段ボール箱で船室宛に直接宅急便で荷物を送ることができる。

乗客は身一つで船に乗り込むことができるから年配者や荷物の多い人にはたまらない。

## ■まるで遺言書

留守を任せる息子に向けて依頼事項を紙に書き留める作業が始まる。日常的な作業で〇〇ゴミはどうしろ、××配達についてはどうしろなど妻が書き残している。

定年退職後には勤めていた会社や関係各方面からいろいろな書類が届いたりする。予測できるものが多いが、できないものもあるかも知れない。こういう書類が来たらこのように処理してくれとか、どこそこから問い合わせがあったならばこう答えてくれとかをまとめて紙に書き始める。

船とはメールでやり取りはできるはずであるが、私はこの家にはいないので手が出せない。そのためにその時の対処についていろいろ指示を残す作業は、それはまるで天国から見ていくかのような気持ちになっていることに気が付く。遺言書や書置きを残すというのはこういう感覚なのかというのが分かってくるから興味深い。

これは子供が親の加護から独立する良い機会かも知れない。また自分たちにとっても日常の仕事やイベントを整理するには必要なことかもしれない。

いずれにしても飛ぶ鳥後を濁さず。遺言書らしきものを書き終え、いよいよ出発である。